政策コメンテーター報告（第２回、意見照会期間：2015年２月27日～３月12日） 清滝 信宏：プリンストン大学経済学部教授

質問事項		選択式回答	記述式回答
経済動向			
1	2015年３月上旬から中旬にかけての経済状況について、関連する業界、地域等の現状やご自身の知見・経験等を踏まえ、3か月前(2014年12月上旬から中旬)と比べて良くなっているか、悪くなっているか選んでいただき、その理由をデータや具体的な事例とともに300字以内でご記入ください。その際、前年との違い等お気づきの点があれば併せてご記入下さい。	良くなっている	正規雇用や基本給が増えるなど、雇用の質と量が改善している。輸出も、円建ての金額に遅れて数量が増加し始めた。また石油価格の下落は、日本全体のみならず、特に石油の消費にしめるシェアの高い地域の実質所得を高める効果がある。
経済の好循環実現に向けた取組について			
２－１	足下の企業収益の拡大が速やかに賃金上昇や雇用拡大につながり、更なる消費や投資の拡大に結び付くためにとるべき対応について、具体的なお考えがございましたら、500字以内でご記入ください。	－	外国企業の対日直接投資は、生産性や雇用の改善に重要であるにもかかわらず、他の先進国に比べて低い。対日直接投資を増やし海外の優れた人材を惹きつけるために、子供の教育や医療のインフラを強化するのが有効であろう。これらは外国人だけでなく日本人の帰国子女にも有用である。
２－２	好循環が生まれ始めている一方、非正規労働者や中小企業等への波及が重要との指摘もございます。そうした観点から強化すべき取組について、お考えがございましたら300字以内でご記入ください。	－	退職金や年金制度を、中途採用と退職の多い非正規労働者や中小企業雇用者に不利にならない制度（積立方式の年金制度）に、長期的に移行する必要がある。